柔道整復学教育

メインテーマ　柔道整復師養成教育における生成 AI 活用の可能性 ― 卒前教育、就職支援、卒後教育・臨床における実践 ―

柔道整復学教育分科委員会　祁答院隼人

【Abstract】
生成 AI は、教材作成や文章生成を効率化するツールとして急速に普及しており、柔道整復師養成教育においても、その活用範囲は広がっている。現在では、授業準備や学生の学習支援に加え、国家試験対策、進路選択・就職支援、就職後のスタッフ教育、臨床実践など、さまざまな場面で活用が試みられている。本セッションでは、生成 AI の活用を「卒前教育」「就職支援」「卒後教育・臨床実践」の三つの局面から捉え、それぞれの現場で行われている具体的な実践を紹介する。各発表では、生成 AI で何ができるかという機能紹介にとどまらず、どのような課題に対して導入し、どのように活用しているのか、さらに、その実践から得られた成果と課題を示す。

◆生成 AI を「使う」から「授業に組み込む」へ ― 教材作成・学習支援・Web アプリ開発による教育実践 ―

日本体育大学医療専門学校　祁答院隼人

【key words】生成 AI、教材作成、学習支援、Web アプリ、AI リテラシー

【Abstract】
【概要】生成 AI は教育現場で急速に普及し、学生による学習利用も広がっている。一方で、教育目的に応じた設計や、人による確認・判断の重要性が指摘されている。本発表では、日常の授業や教育業務から生まれたアイデアを、生成 AI を活用して教育実践へ展開した取り組みを紹介する。【活動内容】授業では、教材･説明資料･確認問題の作成、授業内容の整理、復習や問題演習に生成 AI を活用している。また、学生が生成 AI と対話し、理解度に応じた説明を求める学習活動も取り入れている。さらに、生成 AI を開発支援に用い、教育目的に応じた Web アプリ等の開発にも取り組んでいる。【成果・課題】生成 AI の活用により、教員のアイデアを教材や学習支援ツールとして具体化できる範囲が広がった。一方で、誤情報、個人情報、著作権、過度な依存等への配慮が必要である。生成 AI の出力をそのまま採用せず、教員が確認･修正し、最終的な判断と責任を担うことが重要である。【COI】開示すべき利益相反はない。【倫理的配慮】本発表は教育実践の概要を扱うものであり、個人を対象とする研究データ、診療情報および個人情報を取り扱わないため、倫理審査の対象には該当しない。

◆就職支援からキャリア形成支援へ ― 学生・企業・学校をつなぐ生成 AI マッチング支援システムの開発 ―

日本体育大学　伊藤　　譲

【key words】生成 AI、キャリア形成支援、進路選択、就職マッチング、Web アプリ

【Abstract】

【概要】柔道整復師養成校の就職支援では、学生の希望や価値観を把握し、多様な求人情報と結びつけながら進路選択を支える必要がある。一方、学生と企業の情報量の差や、個別支援に要する時間が課題となる。本発表では、生成 AI を活用した学校向けキャリア支援システムの開発を紹介する。【活動内容】学生の希望条件、働き方、専門性への関心等を整理したプロフィールと、学校が確認・承認した企業情報を基に、学生 1 名と企業 1 社を個別に分析する Web アプリを開発した。結果は学校担当者が確認・承認した後に学生へ公開し、紹介理由、留意点、企業へ確認したい事項を提示する。開発にも生成 AI を用いたが、要件の設定、出力の確認、安全性の判断は人が担った。【成果・課題】本システムにより、学生・企業・学校の情報を一定の枠組みで整理し、面談や進路選択に活用する仕組みを構築した。目的は AI に就職先を決めさせることではなく、学生の自己理解と企業理解、学校との対話を支えることである。今後は、分析結果の妥当性、利用者の受容性、進路選択への影響を検証する。【COI】開示すべき利益相反はない。【倫理的配慮】本発表はシステム開発および教育実践の概要を扱うものであり、個人を対象とする研究データ、診療情報および個人情報を発表資料に用いないため、倫理審査の対象には該当しない。

◆生成 AI は柔道整復師の卒後教育をどう変えるか　―4 年間蓄積した院内 Knowledge と日報・症例カンファレンスをつなぐ実践 ―

株式会社 sports medical gate、宜野湾スポーツ接骨院　今西　博昭

【key words】生成 AI、卒後教育、臨床推論、ナレッジマネジメント、Human-in-the-loop

【Abstract】

【概要】卒後教育では、「マニュアルを作っても読まれない」「同じことを何度も教える」「分からないことを言語化できない」といった課題がある。当院では 4 年以上にわたり、Notion に臨床評価、動画教材、業務マニュアル等を蓄積してきたが、情報が増えるほど「知っている」と「使える」の間に壁が生じた。そこで、生成 AI を活用し、院内 Knowledge をスタッフの経験や疑問と結びつける教育システムへの再構築を進めている。【活動内容】新人が症例について AI と対話しながら、病態仮説、鑑別、画像所見、ガイドラインや原著を確認し、必要時に院長へ相談する「AI 院長カンファレンスコーチ」を開発した。さらに、日報から「できた」「分からない」「相談したい」を拾い、必要時に院長へ通知し、既存 Knowledge や次の教育機会へつなげている。【成果・課題】目指すのは、AI に答えを出させる教育ではなく、「自分で考える・調べる・相談する」行動を促すことである。当日は、導入後の相談行動や原典確認、Knowledge 活用等の変化を実データとともに示し、卒後教育における人と AIの役割を考える。【COI】開示すべき利益相反はない。【倫理的配慮】本発表は院内教育および業務支援システム構築の活動概要を扱うものであり、個人を対象とする研究データ、診療情報および個人情報を取り扱わないため、倫理審査は非該当である。